

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

昭60-33868

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和60年(1985)10月8日

A 45 D 34/04

6671-3B

(全4頁)

⑮ 考案の名称 ブラシ付蓋を有する粘性液用容器

⑯ 実 願 昭56-120086

⑰ 公 開 昭58-26408

⑱ 出 願 昭56(1981)8月14日

⑲ 昭58(1983)2月19日

⑳ 考 案 者 益 山 今 朝 男 東京都府中市日新町1丁目2番8号

㉑ 出 願 人 東京パーツ株式会社 東京都府中市日新町1丁目2番8号

㉒ 代 理 人 弁理士 寺 田 正 外1名

審 査 官 八 巻 惺

1

2

㉓ 実用新案登録請求の範囲

口部を有する瓶と、この口部に設けられた孔を有する弾性体膜と、前記口部に冠着する蓋と、この蓋内面に取付けられ瓶内に伸び前記孔に摺接するパイプと、このパイプ先端に取付けられたブラシと、前記パイプの前記ブラシを前記瓶内に挿入した際前記膜より瓶内側に位置する部所に設けられた中間孔と、前記パイプの前記蓋への取付部近くに設けられた根元孔と、この根元孔と前記蓋口縁との間に設けられた多孔質体と、この多孔質体と前記蓋口縁との間に設けられた仕切板と、この仕切板に設けられた通気孔とからなるブラシ付蓋を有する粘性液用容器。

考案の詳細な説明

本考案はマスカラ液、マニキュア液等の収納に使用されるブラシ付蓋を有する粘性液用容器に関する。

従来のこの種の容器は第1図に示すように、口部10aを有する瓶10と、この口部10aに設けられた孔12を有する弾性体膜14と、口部10aに冠着する蓋16と、この蓋16内面に取付けられ瓶10内に伸び孔12に摺接する軸18と、この軸先端に取付けられたブラシ20とからなる。この容器を使用する場合、ブラシ20を瓶10内に挿入すると、口部10aからマスカラ液等の内容物22があふれ出したり、飛散したりする不都合を生ずることがある。

これは次の理由による。膜14上面には、内容液22をブラシ20で必要な箇所に塗布した後ブ

ラシ20を瓶10内に挿入する際、ブラシ20に残留している内容液が付着する。膜14下面にはブラシ20を瓶10から拔出する際、軸18から膜14によつて拭去された内容液22が付着し、内容液の粘性によりここに留まる。また使用前にこの容器全体を横にしておいた場合等は、瓶10を直立させても、粘性により内容液は膜14下面に付着したままである。この状態でブラシ20を瓶10内に挿入すると、軸18により瓶10内の空気は圧縮されるので、この圧力により膜14の孔12と軸18との間隙または瓶10の口縁10bと膜14との間隙から膜14上面、下面に付着している内容液があふれたり飛散したりするのである。

本考案は軸18に孔を設け、瓶内の圧縮された空気を逃がすことにより、上記不都合を解消するものである。

本考案を第2図、第3図に示す実施例にしたがつて説明する。50は瓶であり、その口部50aには孔52を有するゴム等からなる弾性体膜54が設けられている。56は蓋であり、瓶50の口部50aに冠着する。この蓋56内面には、瓶50内に伸び孔52に摺接するパイプ58が取付けられている。このパイプ58先端には、ブラシ60が、パイプ内部の押えピン62により取付けられている。64は中間孔であり、パイプ58の、ブラシ60を瓶50内に挿入した際、膜54より瓶50内側に位置する部所に設けられている。66は根元孔であり、パイプ58の蓋56への取付

3

部近くに設けられている。68は発泡ウレタン等よりなる多孔質体であり、根元孔66と蓋56口縁との間に設けられている。70は仕切板であり、多孔質体68と蓋56口縁との間に設けられ通気孔72を有している。

したがってこの容器では、第3図に示すように、ブラシ60を瓶50内に挿入し、パイプ58により瓶50内の空気が圧縮されると、空気は中間孔64、パイプ58、根元孔66、多孔質体68、通気孔72を通って外部に流出するので、圧縮空気により内容液74が口部50aからあふれたり飛散したりすることはない。このとき空気とともに内容液も中間孔64から流出することもあるが、この内容液は多孔質体68に吸収され外部に出ることはない。なお空気が流出する通気孔72は仕切板70に形成されているので、蓋56を完全に閉じた状態では、この通気孔72は口部50aにより塞さがれ、内容液74が揮発し、乾燥することはない。

中間孔64から流出する内容液の量は少ない方が好ましいので、中間孔64は膜54の内側で、しかも膜54に近い位置、すなわち瓶50を直立させた際の上方に選ぶとよい。瓶50は直立させて使用することが多く、空気は上方に位置することが多いからである。

また、第4図に示す、他の実施例のように膜を二重にすることも有効である。この実施例は、前

4

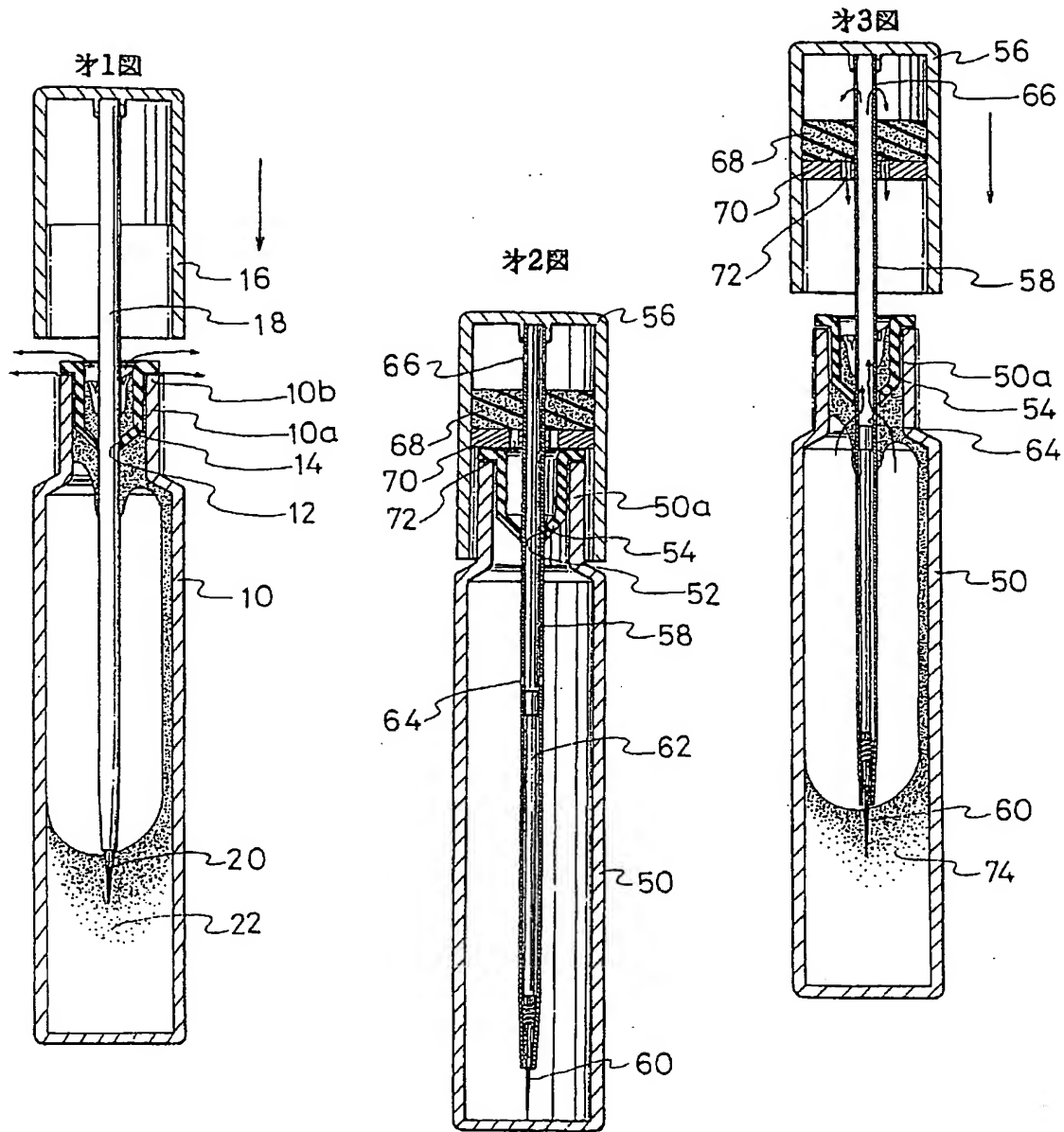
記実施例と同様の容器であつて、膜54より瓶50内側に、パイプ58にゆるく摺接する下膜54'を付加し、中間孔64を、パイプ58のブラシ60を瓶50内に挿入した際、膜54と下膜54'との間に位置する部所に設けたものである。したがってこの容器では常に大部分の内容液が下膜54'の下方ににあり、膜54と下膜54'の間にはほとんど内容液は存在しないので中間孔64から流出する内容液の量は僅少となる。

本考案容器では瓶内の圧力が上昇せず、内容液があふれたり飛散したりしないので、使用に当り手や衣服をよごすことがない。このため本考案はノリ、染髪剤、液状口紅等の各種粘性液の収納に使用することができるが、特に横にして置かれることが多くかつ小型であるため瓶内部の圧力が上昇しやすいマスカラ液、マニキュア液等の収納に適している。

図面の簡単な説明

第1図は従来例の使用状態を示す断面図、第2図は本考案一実施例を示す断面図、第3図は同使用状態を示す断面図、第4図は本考案他の実施例の使用状態を示す断面図である。

50……瓶、50a……口部、52……孔、54……膜、56……蓋、58……パイプ、60……ブラシ、64……中間孔、66……根元孔、68……多孔質体、70……仕切板、72……通気孔。



第4図

